

# 森林やまがた

No. 48

2001 3月



第12回 県民の森ラングラウフスキー大会

## 目次

第12回 県民の森 ラングラウフスキー大会… 1	期待される木質バイオマス… 9
学校林下草刈り… 2	山形県の名水・湧水… 10
森林は移り変わるもの… 3	山形県の古木・名木… 10
間伐推進の取り組みについて… 4	「融雪災害」に思うこと… 11
県産木炭の振興をめざして… 5	初めまして「親林倶楽部 森の案内人」です… 12
『森の案内人』第2期生誕生… 6	森林浴の集いご案内… 13
平田・松山・八幡 3森林組合が広域合併… 7	木材市況… 14
現地ルポ「都市と山村の 交流促進」に向けて… 8	



第53回全国植樹祭

感じていますか 森があるしあわせ

活動の少年団 報告



学校林下草刈り

白鷹町立東根小学校

六年 平 吹 静 夏

六月三日土曜日に、学校林の一つ、杉沢山の下草刈りがありました。これは、毎年六年生が親子で行っている行事です。地区の財産区の議長さんやPTAの役員の方々にも大変お世話になりました。

朝、山の近くの集場所までトラックに乗ってでかける時、顔に風が当たって、涼しくとても気持ちよかったです。でも、大きな道路から山道に入っ

てしばらく歩いたので、マラソンをした時ぐらい疲れました。もつと山の方に歩いて行く時、草をかき分けて登るのが、初めての体験で楽しかったです。名前は知っていましたが、学校林



登って、下って、また登って…ようやく到着！

があんなところにあるなんて知りませんでした。張り切って麻紀ちゃんといっしょに木を切っていくと、太い枝がありました。どうしても切れなくて困っていると、船山先生がナタを貸してくださいました。苦労してやっと切れた時に

は、とてもすっきりした気分でした。また、細い枝がいつぱいあるところを、自分で枝切りバサミを使ってパチパチきれいに切ると、とても気持ちよかったです。その後、調子にのつてどんどん切っていききました。終わるころに後ろを見ると、ジャングルのようだった所が、とてもきれいになっていました。これで学校林の木が、ますます大きく育ってくれるといいなあと思いました。



すごく急だけど、がんばるぞ!!

山から下りる時は、ぬれているところで滑りそうになりながら三倍くらい速く下りてきました。途中で、男の子が川の水を飲んでいたので、大丈夫かなあと心配しながらしばらく見えました。

「これは、飲める水だよ」と言ったので、みんなで川の水を飲みました。そしたら働いたあとだったこともあって、冷たくて最高においしかったです。私は、長い間ずっとハサミを持っていたので、下草刈りが終わってからもしばらく痛かったです。だけど、やってみると楽しかったです。おいしい水も飲めたのでよかったです。私の学校には、杉沢の他に浅立の学校林もあります。大好きな松茸狩りをする山なので、今度、そちらの下草刈りもしてみたいなあと思います。



## 森林は移り変わるもの

酒田市

樹木医 梅津 勘



庄内地方では今、「松枯れ」と、「ナラ枯れ」の二大病虫害が多発しています。庄内砂丘の砂防林は、営々と造成されてきたすばらしい人工林ですが、防風、防砂だけでなく、燃料採取の場としても重要でした。またナラ林も薪炭林として繰り返し伐採利用されてきたもので、いずれもかつては人の暮らしを支えてきた身近な森林が、今被害にさらされているのです。

それは、人の手で維持されてきた森林が放置されたことにより、バランスが崩れてきたことも一因と見ることができま

す。放置の原因は薪炭から石油、ガスへの急激な移行、いわゆる燃料革命に他なりません。

例えば、少し前までの砂防林は、枯木、落葉落枝、松かさや

下草も有効に利用され、手入れの行き届いた美しい松林は、「白砂青松」として、日本人の原風景となつています。しかしそれは、人為的に有機物を持ち去り、土壌化を阻止してきた結果、創出された森林景観であるということができません。

古い時代の庄内砂丘は天然林で覆われていた時代がありましたが、十七世紀頃それが破壊され、砂丘が発達しました。砂丘地の環境条件は極めて厳しく、人々は試行錯誤を繰り返して、三百年以上の苦勞を重ねて今の砂防林の姿が造られたのです。

しかし今、多くの砂防林が放置され、松枯れが多発する様は実に痛々しいものがあります。それでも、荒れた藪の中を良く見れば、自然の再生力を感じ

ることが多々あります。

枯れたマツのそばのエノキやコナラ、カシワ、松より太いサクラ、すつくと伸びたホオノキ、そして風背斜面では、常緑のタブノキ、シロダモなどの生長が驚くほど旺盛です。手入れ次第では、広葉樹林へ徐々に誘導することが十分可能です。

これは、荒廃地における先駆樹種としてのクロマツの効果により、気象、土壌条件が緩和され、かつては思いもよらなかつた広葉樹が生育できる環境が整



手入れされた砂防林

つてきた証です。普通の森林では、落葉落枝、動植物の遺体、糞などが小動物や微生物の働きで分解され腐植となつて徐々に土壌が形成されていきます。そして絶え間ない生存競争のなかで、その時々々の環境条件に適した植物が台頭し、森林を構成するメンバーは日々変化し、種の多様性を増していきます。

現状では、庄内砂丘の砂防林は、確実に自然林化する傾向があります。松林として維持するのであれば、徹底した管理を継続しない限り、この流れは止めることはできません。しかも、管理で発生する膨大な木質バイオマスの有効利用法の確立が、その前提条件にあるのです。

マツが必要な前線地帯、文化的遺産として保全すべき松林、そして自然林に遷移し得る背後地、「白砂青松」のノスタルジーにこだわることなく、自然の再生力も視野に入れた森林の保全が必要な時期にきているのではないのでしょうか。

# 平成十二年度 間伐推進の取り組みについて

## 一、はじめに

森林の荒廃を解消し、健全な森林の造成のため、県では「山形県間伐推進計画」を平成十一年十一月に策定し、平成十二年

資源の有効活用につながる利用間伐は三〇〇ha程度と見込まれており、今後はその促進が課題といえます。

年から五カ年間の間伐実施及び間伐材利用の目標等を定めたと

間伐材の利用については、平成十二年度は、一一、五〇〇m<sup>3</sup>の利用率三八%を見込んでいます。

ころですが、以下、平成十二年度の取り組み状況等を紹介いたします。

特に、土木用資材として治山・林道事業等公共事業で積極的に利用されていることもあり大きく伸びてきています。

## 二、間伐実施及び間伐材の利用状況

### 状況

間伐の実施量は下表のとおり

### 三、間伐推進の取り組みについて

となっており、間伐推進計画で目標としていた年間三、二〇〇haに対して、平成十二年度はそれを上回る三、三〇〇haの実施が見込まれています。

国庫補助事業である緊急間伐等森林整備推進事業において、重点的に間伐することが必要な「緊急間伐団地」の設定を六市町村、七団地、約二〇〇haで行っており、間伐実施の具体的な

しかしながら、所得の確保と

事業計画の調整や市町村と森林所有者との協定の締結を行っていきま

また、三流域林業活性化センターに森林整備調査業務を委託し、県内全域において間伐団地の設定（団地の規模は四〜十齡級人工林で面積一〇〜三〇ha程度）、

間伐団地と路網計画、森林所有者及び市町村の意向等の調査を実施しており、

は優先して間伐を行う団地や対象林分の選定を行い、各市町村や流域単位での間伐計画を作成することにしています。

なお、平成十三年度以降もさらなる間伐実施の推進のため、

間伐作業の低コスト化と利用間伐の拡大に向けて、県、市町村、森林組合、森林所有者が一体となった取り組みを行うことにより、

〔県森林課〕

間伐実施の事業別実績及び見込み

年 度		平10実績	平11実績	平12見込	平13計画
造林補助事業	ha	1,017	2,294	2,100	2,100
間伐実施推進事業	ha	749	728	850	850
治山事業	ha	80	40	180	230
公団、自力等	ha	154	267	170	170
計		2,000	3,329	3,300	3,350

間伐材利用実績及び見込み

年 度		平10実績	平11実績	平12見込	平13計画
間伐材利用可能量	m <sup>3</sup>	23,707	25,660	30,000	30,000
間伐材利用量	土木用資材業	2,360	3,624	4,100	4,400
	建築材、その他	5,010	5,331	7,400	8,200
	計	7,370	8,955	11,500	12,600
利用率	%	31	35	38	42



# 県産木炭の振興をめざして

## 平成十二年度 山形県木炭品評会

二月十五日～十六日の両日、飯豊町民総合センター「あぐす」にて山形県及び山形県木炭文化協議会（会長井上俊雄）主催の山形県木炭品評会が開催されました。

県内各地から三十五点の応募があり、白炭部門、黒炭部門、創作部門の三つに分かれて品質、



審査会風景



知事賞受賞作品

技術、独創性を競いました。

審査規定に基づき、炭の精練度、硬度、色沢、寸法形状等について厳正な審査を実施したところ、次の七点が受賞しました。

- ◎山形県知事賞
  - ・通常部門 白炭の部
  - ・草刈広一さん（小国町）
- ◎飯豊町長賞
  - ・通常部門 黒炭の部



創作部門「藤炭花」

以上、受賞者の皆様おめでとうございます。会場では、「生け花と炭の調和」を図った西川町の山田静さんと、「鑑賞炭」を製作している長井市の菅野ちゑさんの作品展も開催され、大勢の人でにぎわいました。

- ・渋谷岩夫さん（長井市）
  - ◎山形県森林組合連合会長賞
    - ・通常部門 白炭の部
    - 樋口勝典さん（飯豊町）
  - ◎西置賜ふるさと森林組合長賞
    - ・通常部門 黒炭の部
    - 渋谷岩夫さん（長井市）
  - ◎西置賜林業振興協議会長賞
    - ・通常部門 白炭の部
    - 渡部良範さん（飯豊町）
  - ◎山形県木炭文化協議会長賞
    - ・創作部門
    - 樋口勝典さん（飯豊町）
    - 舟山清一さん（飯豊町）
- さて、本品評会は今年で第七回目を迎えておりますが、生産者の技術レベルは非常に高く、精練度、硬度等はほとんどが満点に近く、審査員を悩ませていました。また、創作部門でも独創性が高く、アイデア、製作技術もかなり高度になってきています。
- 本品評会が、木炭生産技術の向上、新製品の開発促進、生産者の意欲の高揚等を図り、木炭振興の一助となれば幸いです。
- 〔西置賜地方事務所林業振興課〕

# 『森の案内人』第二期生誕生

## 総勢九十二人の案内人の活動に期待

昨年度に引き続き「森の案内人」養成研修の参加者を募集したところ、県内各地から応募があり、研修を終了した四十二名の方が、新たに今年四月から活動することになりました。

「源流の森」では、現在百六十名のインタープリターが、利用者の案内指導役として活躍し



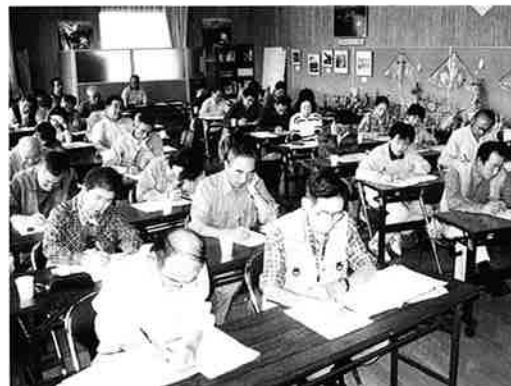
野外で植物の話を聴く

ています。

また、「森の案内人」は、「県民の森」・「眺海の森」や現在整備中の「遊学の森」を活用し、子どもたちの体験学習や山村の伝統文化等を活用した都市・山村の交流の場など教育・文化的な利用を推進していくために養成を行っているものです。

昨年年度修了した第一期生は、不安を抱えながらも、現地の植生調査や独創的な木工製作に余念がなく、その積極的な取り組みは、楽しい活動の広がりを感じさせます。

さて、第二期生の養成研修は、昨年八月から十月にかけて四回にわたり実施しましたが、受講者からは積極的な発言が多数あ



第3回研修会 聴講風景

り、熱気に包まれたものとなりました。

第一回目は、森林・林業に関する基礎的な内容について講義を受け、二回目以降は、樹木の見分け方を主体にした森林観察、下刈りなどの作業体験、自然と遊ぶプログラムの実践、プログラムの企画とデザインや指導者に求められる話し方など指導技術に関する研修、そして、十月十四日の最終回には、活動にあたっての安全管理について救急

救命士の方を講師に招いて実践を交えた講義を受けた後、修了証書が授与されました。  
今年四月からは、いよいよ各フィールドでの活動が始まりますが、第一期生とのチームワークで、多くの来訪者に森林のすばらしさと大切さを伝えてくれることを期待しています。

なお、平成十三年度も引き続き養成することになっています。皆様の御応募をお待ちしています。  
〔県森林課〕



安全管理の実技研修

## 飽海地方森林組合設立(四月一日) 平田・松山・八幡 3森林組合が広域合併

飽海地方森林組合が県内八番目の広域合併組合として発足の運びとなりました。

組合員は約三六〇〇人、組合員所有森林面積は約一万ヘクタール、地区は酒田市北沢・生石地区、平田町、八幡町、松山町



の鳥海山南麓を取り囲むようにして森林が位置し、森林の育成には熱心で人工林率が高く良質材の生産に取り組んでいる地域であります。

森林組合活動においては、拡大造林が大幅に減少し、保育・間伐等の森林整備が主たるものとなっております。地域林業の中核として森林施業の共同化の促進による森林の適切な整備、木材の安定供給の取組み、高性能林業機械の導入による生産性の向上等、多角的な事業展開が求められています。ついでには、組合組織と経営基盤の安定化を図り、地域に立脚した協同組合として組合員の社会的経済的地位の向上と併せて恵み豊かな森林と魅

力ある地域林業の振興発展に寄与する事を目的としております。山形県森連は、「森林組合活動21世紀ビジョン」に基づき、広域合併の推進を重要課題として掲げ、ビジョン策定初年度としてこの広域合併に取り組んできました。

平成12年6月1日に合併準備会発足、合併に向けての基礎的条件の調査を中心とした活動を経て、8月10日に合併推進協議会に活動の場を移し、引継資産査定調査及び協議を経て合併に望むことを改めて確認。

11月10日には合併予備契約調印式が行われ、(写真)阿部皓平田森組長、土井保男八幡森組長、石塚名賀夫松山森組長と立会人の阿部寿一酒田市長、後藤孝司八幡町長、加藤寛英平田町長、佐々木藤正松山町長及び土田和一郎山形県森連会長が合併予備

契約書に調印。

11月28日には、三つの森林組合の合併総会がそれぞれ行われ、合併及び合併予備契約書、財産損益異動予定明細書の承認と合併事業経営計画書及び設立委員の選任が決議されました。

2月15日合併認可申請を行い、山形県知事の認可を受けて4月1日の設立となります。

本所は、平田町、支所は八幡町、松山町の旧組合事務所を設置することとし、事業は資源循環型森林施業団地化モデル事業及び森林管理巡視員制度の設置で常勤役員10名体制整備をすることとしております。

これまで、広域合併について特段のご理解のもとご協力を賜った庄内支庁、酒田市、平田町、八幡町及び松山町に対して感謝申し上げます。

〔山形県森林組合連合会〕

**現地ルポ**  
**「都市と山村の交流促進」に向けて**  
**温海町に「小国ふれあい公園」完成!!**

温海町小国地区は町のほぼ中央部に位置し、周囲を山々に囲まれた自然豊かな山里です。また、近くには戦国時代の山城跡等の歴史を感じさせるスポットもあります。地区には旧小学校校舎を利用した滞在施設「楯山荘」があり、夏休みの時期を中心に、関東方面から年間約二千人程度の利用客が訪れます。

温海町はこのような地域の状況をふまえ、「楯山荘」周辺の環境を充実して、さらなる利用者の増大、都市と地域住民の交流促進、地域の活性化を図る目的で「小国ふれあい公園」を整備しました。

公園は国庫補助事業である林業地域総合整備事業の採択を受

けて、平成十年度から整備が開始され、昨年暮れに総事業費一億七千万円で完成しました。公園の整備は「生物相の豊かな森づくり」、「人と森とのふれあい」を基本方針として、周囲の自然環境を活かしつつ、次に示す三ゾーンで進められました。



森林ゾーンの展望やぐら

「森林のゾーン」では周囲の雑

木林を利用して遊歩道や四阿、展望やぐら等が整備され、森林浴と周辺の眺望を楽しむことができます。

「昆虫のゾーン」では山すその湿地を利用して池や八つ橋等が整備され、数多くの湿性植物や昆虫の観察が容易にできるようになりました。



昆虫ゾーンの植生状況

「史跡のゾーン」は当公園の拠点としての位置付けで、池や広場、駐車場、トイレ、発電装置付きの水車施設等が整備され、

地元「あつみ杉」が多くの施設で積極的に利用されています。



史跡ゾーンの水車施設

どのゾーンにおいても自然散策等のレクリエーションはもとより、子供たちの自然環境教育の場としての利用もできます。

「小国ふれあい公園」は今春の開園が予定されていますが、地域の憩いの場としていつまでも愛され、温海町及び小国地区の活性化に役立てられていくことを期待しております。

〔庄内支庁 林業振興課〕



# 期待される木質バイオマス

— 森林フォーラムを開催 —

森林・林業の普及啓発及び林業後継者の技術向上を図ることを目的に、林業技術向上実践活動報告、海外研修成果報告及び講演会を平成十二年二月九日（金）に開催しました。会場の山形国際交流プラザ交流サロンには、約百七十名の一般県民、林業関係者等が参加し、熱心に聴講しました。

講演では、『期待される木質バイオマス』をテーマに岩手県の葛巻林業株式会社 代表取締役社長 遠藤保仁氏に講演をいただきました。バイオマスとは林業や農業、畜産業から発生する生物資源であり、その主力が木質バイオマスです。葛巻林業株式会社は、日本でペレットを製

造している二社のうちのひとつで、第二次石油危機後、石油代替エネルギーのひとつとして森林資源が注目された後、一九八一年から、樹皮やおが粉を直径六〜八mm、長さ一五mmほどの円柱状に固めた成形燃料であるペレット状木質燃料の製造に着手しました。



講師 遠藤保仁先生

講演では、ペレット工場の概要、製造工程、利用方法などについて、スライドを交えながら、同会社がなぜ現在までペレットを生産し続けることができたのかを話され、二十一世紀は「環境」がキーワードであり、「森林資源の有効活用におおむね必要がある」と話されました。今後、ペレットの炭化や間伐材の新用途のペレットを開発推進していく計画を持っており、木質バイオマスの多用途の可能性を力説されました。

最後に、山形県にもぜひ、山形型の木質バイオマス利用を考えてほしいと話されていました。なお、講演に先立ち、林業後継者技術向上実践事業による成果報告があり、最初に、朝日町愛林会の会長阿部健一郎氏による『伐根・間伐材・松くい虫被害木を利用した木工品製作』の



林業後継者技術向上実践事業報告

成果として、スギの伐根を利用したイスやテーブル等の製作方法についての報告がありました。続いて『ナルコユリの栽培』の体系化に取り組んだ村山市林業クラブの須藤和幸氏から実生苗の育成から定植、肥培管理、そして、収穫まで七年必要とするといった栽培技術体系の報告がありました。

〔県森林課〕



山形県の名水・湧水⑱

# 金掘り清水

川西町上小松

## 案内図



「金掘り清水」と呼ばれるほら穴が、川西町上小松の東陽寺前にある。上水道が整備されるまでここから沸き出る清水を飲み水に利用していた。しかし、いつごろ、だれの手で掘られたのか、名前のごとく「金掘り」を目的に掘られたのか、一切わかっていない。

そこで、ほら穴探検を試みたところ、全長50メートル、中は三つの部屋状に分かれていることが分かった。(山形県森林協会)



山形県の古木・名木⑳

# 熊野神社の大イチョウ

南陽市宮内、熊野神社の境内にあり、根周り七・七メートル、高さ約三十メートル、

銀杏としては県内でも有数の巨木である。

樹齢は数百年に及ぶものと推定されている。秋には葉が鮮やかな黄色に染まり、地域

の風物詩となっている。

源 義家が後三年の役のあとに、家臣の鎌倉権五郎景政

に命じて植えさせたという伝説がのこっている。

昭和三十一年十一月山形県

天然記念物に指定されている。

〔山形県森林協会〕

# 「融雪災害」に思うこと

山形県縁を育てる女性の会

大江町 菊地 喜恵子

昨年の五月三日、小清から近所に移り住んだ佐竹さんご夫婦が、朝早く相談があるとの事で主人の所に見えました。お茶を出しながら聞いていましたら、所有する山林に大規模な地滑りが発生したとか、その対策について相談でした。

若い頃から生長を楽しみに手入れをしてこられた杉林との事で、がっかりした様子はとても他人事とは思えませんでした。次の日、主人と一緒に、先に発生した貫見地区の地滑りと共に見に行くことになりました。先に発生した所では橋が三百mも下流にそのまま落下していました。佐竹さんの山林は更にその奥で、現場に着いて見ると災害のすざ



雑ぎ倒された杉林

まじさには驚きました。四十年以上の杉林がめちゃめちゃに雑ぎ倒され、山のあちこちに大きな割れ目ができ、泥水が流れ、ヒューム管が転がっていました。私の知識だけでは災害のメカニズムは解りませんが、自然災害とだけは言えないような感じがしました。

最近の山林は社会の変化によ

り人手不足のため手入れが十分と言われますが、春の山菜の季節はピカピカの車で山に行く人が多く、汗して山村で働く人が日本から消えた時、このような災害があちこちで発生するのではないかと思いました。自然界からの人間への警告のような気がしてなりません。

雪折木やザイセンチュウの被害を受けた杉や松が沢をせき止め、峰を風化させている姿が見られます。これでは日本で唯一の再生できる資源としての山林の姿とは言えないのではないのでしょうか。外材が八割を占める木材消費の中で、国産材は益々弱い立場になっています。林業基本法の改定とかで大江町にも国会議員の方が調査に来られましたが、聞くところ、改定では木材生産から環境を重視することですが、その時「自然保

護は単に木を切るな、人工林にするなどでは駄目なのは、長い目で見て、日本では、東北では、県では、どのような需給で木材生産が可能か、どこで生産するのか、長期的計画が必要なのかなど、基本的なことが欠けているような気がする」とつぶやいていた主人の言葉に考えさせられました。長年手入れをした山林が災害にあつた佐竹さんご夫婦には、もう一度すばらしい杉林を、の夢を持って頑張つてほしいと思います。

今年も、近年にない大雪で雪害が心配されます。昨年も年末年始の重い雪で雪折木が大発生、ここ十年間で三回もあると手入れは不可能と主人も言っていますが、天災だけではなく、先にも書きましたが社会のしくみ、山林への無関心、理解不足が心から離れません。

初めから「親林倶楽部」の森を育てよう

金山町

代表世話人 片桐久志

昨年、金山町杉沢地区内の林業後継者が集まり、林研グループとして仲間入りをさせていたできました。

グループ結成のきっかけは、昨年で七回目となった、哲学者、内山節先生を迎えての「山里フォーラム」の中心スタッフがメンバーとなっており、山里フォーラムを開催するようになってから、都市の人々が沢山来られる様になりましたが、その人達と話をしてみると、林業や森林に対してすごい知識と興味を持っていることに驚いていました。そんな方々と相対するには、我々ももっと勉強する必要がありますと痛切に感じました。幸い我が地区では、殆どの家で山林を所

有していますし、金山町の中でも山林に対する愛着が強い所なので、グループの設立はスムーズに行きました。



創立総会記念写真

さて、昨年の活動状況を紹介しますと、二月〜三月にかけて「やまがた休暇」冬企画の手伝いとして、雪遊びや、かんじき

ハイキングの指導を行いました。又、七月〜八月に夏企画が行われ、グリーンバレー神室のブナ林早朝案内や、金山杉の美林で有名な「大箕輪の杉林」の案内等を行っていきます。

八月の下旬には、七回目となる「山里フォーラム in かねやま」を開催し、次の日には、最上地方事務所林業振興課のご協力と指導による、間伐体験講習会を開きましたが、この模様は「おしえてアグリ」というTV番組で、関東・関西の大都市で放映されましたが、残念ながら地元では放映されませんでした。秋には、杉間伐材の根曲り材を利用した、アルプスホルン作りの講習会を開催しましたが、三月中の完成を目指して悪戦苦闘中です。又、NPO二〇〇〇最上地区大会の分科会が杉沢地区の公民館で行われた時は、運営

を引き受けてこれに当りました。これから金山町では、来年の全国植樹祭、平成十六年整備完了予定の遊学の森等、山形県内はもちろん、全国から注目を集めるようになりますが、少しでもお役に立てるように頑張ります。



山里フォーラム in かねやま

先の見えない林業不況の今、改めて親林の持つ公益性や環境に対する有益等を都市の人々に限らず、地元の方々にも知っていただけるような橋渡し役になりたいと思っています。



# 「森林浴の集い」<sup>ご案内</sup>

東北森林管理局蔵王森林センターでは、市民の皆さんが森林の中で自然と親しみ、遊び、学ぶ喜びを味わうことができるよう、森林とのふれあいを推進することから、次のイベントを企画しております。

なお、各イベントの詳細につきましては、次にお問合わせ下さい。

**問合わせ先： 蔵王森林センター ☎023(622)5107**

回数	イベント名	実施場所	実施予定日
第1回	経塚山自然休養林を訪ねて	経塚山（上山市）	5月23日（水）
第2回	高原散策と新緑観賞	蔵王中央高原	6月19日（火）
第3回	孤高の名花「コマクサ」を訪ねて	熊野岳・観松平（蔵王）	7月25日（水）
第4回	瀧山登山と自然探索	瀧山（蔵王）	8月31日（金）
第5回	秋の高原植物観賞	山形神室	9月21日（金）
第6回	紅葉川渓谷と紅葉観賞	紅葉川渓谷（山寺）	10月19日（金）

## 月刊誌のご案内

### 「林業新知識」

B5判/24頁  
年間購読料2,500円（税・送料込）

1953年の創刊以来、全国の林業関係者、森林所有者に読まれている林業関係で一番発行部数が多い月刊誌です。

誌面を象徴するのが「表紙の人」。農山村に暮らし働く人にスポットを当て、さまざまな話題や情報を、写真やイラストを盛り込みながらわかりやすくレポートします。読み続けることでちょっと得をする月刊誌です。



### 「GR現代林業」

A5判/80頁  
年間購読料3,900円（税・送料込）

農山村で働く若い女性の表紙でおなじみの『GR現代林業』は、森林を生かす経営を中心に編集していますが、最近は育て上げた森林を生かすための木材利用と木造建築、一般の人々に森林への理解を深めてもらうために森林教育に力を入れています。

現地の最近の動きと関係者の展望を盛り込んだ『GR現代林業』は森林・林業のこれからを考える総合雑誌です。



**購読の申込みは山形県森林協会か各地区の林業振興協議会へ**

21世紀の緑を美しく、  
安らぎと輝きの森林と水を求めて



社団法人

**山形県林業コンサルタンツ**

理事長 菅原 六郎

山形市松栄一丁目5番41号 TEL (023)647-1800  
FAX (023)647-1801

街に緑を 窓辺に花を

確定利回りの1年貯蓄



**農林中央金庫** 山形事務所

〒990-0042 山形市七日町3-1-11  
☎(023)641-6271

どなたでもお気軽に

半年複利の5年貯蓄



素 材	樹材種	材長	品等	1m <sup>3</sup> 当り価格	前月比較		
	スギ小丸太	3.65~4.00m	込	11,900円	0		
スギ中丸太	//	//	16,300円	-300			
スギ大丸太	//	//	19,300円	-100			
米マツ中丸太	6.0m~	普通材	19,300円	0			
米マツ大丸太	//	//	23,500円	+300			
北洋アカマツ中丸太	3.8~	//	16,700円	+300			
製 品	樹材種	厚	幅	長	品等	1m <sup>3</sup> 当り価格	前月比較
	スギ柱	10.5cm	10.5cm	3.00m	特等	60,300円	-900
米マツ柱	10.5cm	10.5cm	4.00m	//	59,200円	+600	

木材市況  
(二月一日現在)

印刷所

渡辺活版所

定価

一部三〇円

森林やまがた3月号 平成13年3月1日発行 通巻第48号

編集 山形県森林協会 山形県

発行 山形県森林協会

〒990-0045 山形市桜町2-35 林業会館内

TEL 023-631-6566 023-622-8823

FAX 023-631-6573